石狩国雨龍白烏山の植物相

著者	三角 享, 渡辺 定元
著者別表示	MISUMI T., WATANABE S.
雑誌名	北陸の植物 = The Hokuriku journal of botany
巻	5
号	4
ページ	117-121
発行年	1956-10-15
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065470

Creative Commons : 表示 - 非営利 - 改変禁止
http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/3.0/deed.ja

三角享※・渡辺定元※※

石狩国雨龍白鳥山の植物相

MISUMI, T. & S. WATANABE : On Serpentine Vegetation of Mt. Shiratori, Prov. Ishikari, Hokkaidô.

石狩国雨竜白鳥山（坊主山標高 776 m）は蛇紋岩よりなつている。この山体はすでに1931年舘脇博士は蛇紋岩地帯のアカエゾマツ林の研究の折，注目しておられ，数年後に平野孝治（現林野庁），田下英次（戦没）両氏は舘脇博士の依頼により植生調査を行つている。これが白鳥山調査の始めである。この時タカネヤハズハハコが同山に産することが始めて知られた。その後1934年高松重親氏が踏査し，シラトリシヤジンを得，35年には山中敏夫，吉村文五郎，鈴木為武氏等が調査している。

その後，御料林深川出張所でこゝに採集会を催した事もあるらしいが，そのデータは北大にはない。戦後は1954年，前深川署長小暮保等一行総勢20余名が同地をおとずれている。それでこの山に関する資料は，平野，田下，山中，吉村氏等のをまとめた，(1) 宮部金吾・舘脇操：Contribution to the Flora of Northern Japan, in Trans Sapporo Nat. Hist. Soc, 14 : 80, f. 7 (1935) (2) 舘脇操："雨竜白鳥山を探る" 北海道林業会報 Vol. 34, p. 402 (1936) (3) 舘脇操：アカエゾマツ林の群落学的研究，北大演研報告 Vol. 13, No. 2, p. 55 (1944) などがあり，戦後は，(4) 小暮保：白鳥山，採集と飼育 Vol. 17, No. 3 (1955)，及びこれらをまとめた，(5) 豊国秀夫：On the Ultrabasicosaxicolous Flora of Hokkaidô, Japan ; in the Hokuriku Jour. Bot. Vol. 5, No. 1, p. 13 を上げることが出来る。

1955年7月20日，筆者等は北大農学部舘脇博士，小暮前深川営林署長，村松経営課長のお供を致し白鳥山を探る機を得た。コースは新雨竜浅野炭鉱に一泊し，右大股より白鳥山に至り，南東に延びる屋根をくだつて鷹泊に下りたが，この日は鷹泊の苗畑測定では午前9時34 °C と云う記録的な暑さで歩道はうだる様な暑気で踏査はそのため非常に難渋であつたことを附記する。

本文を草するに際しましては舘脇博士には一方ならぬ御指導を賜り，こゝに深き謝意を表します。

A. 幌新立別川支流右大股沢をのぼる 留萌線恵比島からわかれ 15 km ばかり北上した留萌鉄道の立別駅附近で，幌新立別川支流，右大股沢が東から合流してくる。白鳥山に入るにはこの沢を東に約 4 km のぼらなければならない。現在このあたりの森林を概観すると，広葉樹が多く，針葉樹は極めて少ない。針葉樹はトドマツのみであるが，おそらく以前には今より数が多かつたに相違ない。しかし多いといつたとて広過混交林であつたことは確かであろう。平坦なところにはシナノキやエゾイタヤ，ベニイタヤが多く，アカダモ，ミズナラがこれに次ぎ，ナガバヤナギ（流畔），オニグルミ，ケヤマハンノキ，ヤマグ

※ 北海道大学農学部植物学教室 ※※ 帯広市帯広営林局計画課

ワ，ホウノキ，エゾヤマザクラ，シウリ，ヒロハノキハダ，センノキ，ヤチダモなどを見た。この辺の谷で，カツラ（支線の沢），コブシ（8林班）は極めて稀の由。路辺で目撃したシナノキは樹高25 m 胸高直径60 cm，エゾイタヤは樹高20 m，胸高直径50 cm ぐらいあつた。現在このあたりの森林を概括するならシナノキ-エゾイタヤ林と見てよいであろう。

白鳥山登山歩道は大体流畔に沿つているので，従つておおむね広葉樹林であり，時に流畔の台地的地形上にミズナラ林を観察したが，これは部分的なものであつた。灌木としてはトツクリハシバミ，エゾサワアジサイ，ドクウツギ！，サワフタギ，オオカメノキ，タニウツギを見，蔓茎類としてはイワガラミ，ツルアジサイ，ツタウルシ，ヤマブドウなどを見た。歩道沿には時に多年生草本群落が発達している。オオイタドリはしばしば優占種となり，また時にオニシモツケまたはウラゲヨブスマソウがそれぞれ優勢であり，小部分的にはエゾアザミの多いこともあり，また時にはクマイザサ（オオバザサを混ずることあり）の多いこともある。その他林床植物をあげると次の如きものがある。

ハクモウイノデ，メシダ，ヤマイヌワラビ，オシダ，ミヤマベニシダ，イヌガンソク，クサソテツ，ツヤナシイノデ，ジユウモンジシダ，シシガシラ，コタニワタリ，リヨウメンシダ，スギナ，ヒトリシズカ，ヤマトキホコリ，ムカゴイラクサ，エゾイラクサ，アオミズ，オオミゾソバ，エゾシヨウマ，オオレイジンソウ，エゾノリユウキンカ，カラマツソウ，ミツバタネツケバナ，コンロンソウ，ヤマブキシヨウマ，フツキソウ，クサノスミレ，ミズタマソウ，イワアカバナ，ウド，エゾニユウ，アマニユウ，オオハナウド，ウマノミツバ，エゾオオサクラソウ，イケマ，ミヤマトウバナ，クルマバソウ，レンプクソウ，アマチヤズル，バアソブ，エゾヨモギ，エゾゴマナ，ヨツバヒヨドリバナ，オオブキ，ハンゴンソウ，ヒロハノドジヨウツナギ，オオネズミガヤ，ヨシ，ミヤマシラスゲ，ヒメシラスゲ，オオカサスゲ，アズマナルコ，ザゼンソウ，エゾウバユリ，チゴユリ，オオアマドコロ，ホウチヤクソウ，ノビネチドリ etc.

B. 二股より白鳥山南陵へ　二股（高距200 メートル）より，東すること3キロ，大体西向する尾根をのぼす白鳥山南陵（500 メートル）につゞく稜線に着くのであるが，大体ゆるい稜線である。この間は大体ダケカンバ，シナノキ，エゾイタヤを主とする広葉樹林で，林床はクマイザサが優占している。喬木としてはトドマツ，ミズナラ，オヒヨウ，ホウノキ，コシアブラ，エゾヤマザクラ，ベニイタヤ，小喬木としてアズキナシ，シロザクラ，ハウチワカエデ，灌木としてはトツクリハシバミ，ハイシキミ，ハイイヌツゲ，コマユミ，ヒロハツリバナ，エゾユズリハ，カラスシキミ，オオバスノキ，オオカメノキ，蔓茎類としてはツルアジサイ，ツタウルシ，ヤマブドウ，ミヤママタタビなど生じ，その他林床植物としては次のものがあつた。

シラネワラビ，オシダ，イヌガンソク，ヤマソテツ，シシガシラ，エゾシヨウマ，ヒメイチゲ，ヒメゴヨウイチゴ，クサノスミレ，ミヤマスミレ，エゾオオサクラソウ，ミヤマトウバナ，ウメガサソウ，ヒトツバイチヤクソウ，ツルリンドウ，クルマバソウ，バアソブ，ミミコウモリ，ヤマカモジグサ，ヒメシラスゲ，カタクリ，マイズルソウ，ツ

クバネソウ，クルマバツクバネソウ，ユキザサ，エンレイソウ，エゾスズラン，クモキリソウ

それから稜線近くなると，小喬木としてヤマウルシ，ミネカエデなどがあらわれ，林床にショウジョウスゲなどの多いところが出てきたり，イワウサギシダ，ヒロハヒメイチゲ，タケシマランなども見た。

アカエゾマツが始めてあらわれたのは535メートル附近で，灌木としてハナヒリノキやクロウスゴもかなりあらわれ，ノリウツギやオオバスノキも見るであろう。そして林床にはマンネンスギ，フイリミヤマスミレ，タニギキョウなども見られる。白鳥山南稜線の肩附近はダケカンバ林，ミズナラ-シナノキ林，部分的にはミズナラ林を見るが，ナラ林木は風衝型を呈して，高さも10～15 m前後になつてくる。稀にハイマツもあらわれる。林下にはササ類が優占するが，時にはオオバキスミレやツルアリドウシなども見るであろう。今ミズナラ林の一例も示してみよう。ミズナラ林といつても大面積のものはなく，小部分の団林的なものであるけれども樹高14 m，胸高直径30～40 cm，混生するダケカンバは樹高10 m，胸高直径50 cm前後である。混生喬木としては若干のアカエゾマツとナナカマドがあり，第二層は樹高約4 m，胸高直径5 cmのオガラバナに占められ，林下は稈高1.5 mぐらいのエゾネマガリに占められていた。灌木層にはアカミノイヌツゲ，オオバスノキ，林床にはシシガシラ，ハイシキミ，ショウジョウスゲ，マイズルソウ，ツクバネソウ，蔓茎類としてはツルアジサイ，ツタウルシがあつたが，林床ではエゾネマガリを除くと，被度はいずれも（＋）に過ぎない。

C. 白鳥山 白鳥山が高山植物が多いのは大体南稜の東西に発達する蛇絞岩の崩壊地を中心とする草原である。樹木限界は散在するアカエゾマツ林に特徴ずけられ，附近にはチシマザクラ，ミヤマハンノキを伴い，頂上は稈高50 cm前後のチシマザサに占められ，その中に，ハイマツ，タカネナナカマド，アカミノイヌツゲ，クロウスゴの灌木叢がある。ヒメヤシヤブシ，トツクリハシバミ，ヒロハノヘビノボラズなどはかなり上部までのぼつている。崩壊地を中心とする草原の植物をあげてみると次のものがある。

リシリビヤクシン，イワウサギシダ，ヤマドリゼンマイ，キツネヤナギ，タカネナデシコ，カラマツソウ，エゾノイワハタザオ，ウメバチソウ，ヤマブキショウマ，エゾシモツケ，キジムシロ，シロワレモコウ，チングルマ，ヒメナツトウダイ，クロテンシラトリオトギリ，ヒダカキスミレ，オオバキスミレ，エゾアオイスミレ，コガネサイコ，カワラボウフウ，エゾノヨロイグサ，ミヤマセンキョウ，エゾイソツツジ，ゴゼンタチバナ，ツマトリソウ，イブキジヤコウソウ，エゾキヌタソウ，ウリユウシヤジン，タカネヤハズハハコ，エゾアザミ，エゾタカネニガナ，テシオコウゾリナ，ナガバキタアザミ，コガネギク，イワノガリヤス，ウシノケグサ，オオウシノケグサ，コメガヤ，エゾススキ，ショウジョウスゲ，カタクリ，シロウマアサツキ，エゾカンゾウ，クロバナギボウシ，ショウジョウバカマ，マイズルソウ，etc.

なほアカエゾマツの下やハイマツの下には，ゴゼンタチバナ，ミヤマホツツジ，ベニバナヒヨウタンボクなどを生ずる。

高山植物目録

この目録は本調査による採集品の他，1954年6月の小暮氏採集標本及び1955年8月24日渡辺の採集による82種の高等植物のうち特に高山植物および蛇絞岩に関係深い種を上げる。

Asplenium Trichomanes L. チヤセンシダ

Gymnocarpoum Robertianum NEWMAN イワウサギシダ

Pinus pumila REGEL ハイマツ

Juniperus nipponica MAXIM. ミヤマネズ

J. sibirica BURG. リシリビヤクシン

Betula Ermani CHAM. ダケカンバ

Alnus Maximowiczii CALLIER ミヤマハンノキ

Thesium refractum C. A. MEY. カマヤリソウ

Dianthus superbus L. var. *speciosus* REICHB. タカネナデシコ

Clematis fusca TURCZ. クロバナハンシヨウズル

Berberis amurensis RUPR. var. *japonica* REHD. ヒロハヘビノボラズ

Parnassia palustris L. ウメバチソウ

Spiraea betulifolia PALL. var. *Aemiliana* KOIDZ. エゾマルバシモツケ

Sorbus Matsumurana KOEHNE ウラジロナナカマド

S. sambucifolia ROEMER タカネナナカマド

Geum pentapetalum MAKINO チングルマ

Rosa acicularis LINDL. オオタカネバラ

Geranium erianthum DC. チシマフウロ

Galarhoeus Sieboldianus HARA var. *montanus* HARA ヒメナツトウダイ

Empetrum nigrum L. var. *japonicum* K. KOCH ガンコウラン

Ilex Sugeroki MAXIM. var. *brevipedunculata* OHWI アカミノイヌツゲ

Hypericum Tatewakii S. WATANABE シラトリオトギリ[1)]

var. *nigro-punctatum* S. WATANABE クロテンシラトリオトギリ

Viola teshioensis MIY. et TATEW. エゾアオイスミレ

V. hidakana NAKAI ヒダカキスミレ

V sachalinensis H. BOISS var. *alpina* HARA アポイタチツボスミレ

Vaccinium axillare NAKAI var. *coriaceum* HARA エゾクロウスゴ

V. Vitis-Idaea L. コケモモ

---

1) **Hypericum Tatewakii** S. WATANABE, in Acta Phytotax. Geobot. 16:126(1956) var. **nigro-punctatum** S. WATANABE, l. c.

H. kamtschaticum TATEWAKI et TOYOKUNI non LEDEB.

白鳥山蛇絞岩地帯に発見された新種である。舘脇，豊国氏は前出文献においてハイオトギリとしているが，多分，クロテンシラトリオトギリを指していると思う。尚，北大標本庫には，本山産の *Hypericum* の標本が見当らなかつた。

Swertia tetrapetala PALL. var. *yezo-alpina* HARA, in Syn. タカネセンブリ
Halenia corniculata CORNAZX ハナイカリ
Thymus quinquecostatus CELAK. イブキジヤコウソウ
Veronica Schmidtiana REGEL var. *pubescens* TATEW. シラゲキクバクワガタ
Galium boreale L. var. *kamtschaticum* MAXIM. エゾキヌタソウ
Adenophora uryuensis MIY. et TATEW. シラトリシヤジン
f. *angustifolia* S. WATANABE[2] ホソバノシラトリシヤジン
Anaphalis alpicola MAKINO タカネヤハズハハコ
Crepis gymnopus KOIDZ. エゾタカネニガナ
Picris japonica THUNB. subsp. *jessoensis* KITAM. テシオコウゾリナ
Saussurea Riederi HERDER var. *yezoensis* MAXIM. ナガハキタアザミ
Solidago decurrens LOUR. コガネギク
Sasa kurilensis MAK. et SHIBATA チシマザサ
Agrostis flaccida HACK. ミヤマヌカボ
Festuca ovina L. var. *ovina* ウシノケグサ
Allium Schoenoprasum L. var. *orientale* REGEL シロウマアサツキ
Heloniopsis orientalis C. TANAKA ショウジョウバカマ
Hosta atropurpurea NAKAI クロバナギボウシ
Lilium medeoloides A. GRAY var. *kurilense* NAKAI ホソバクルマユリ
Polygonatum humile FISCH. ヒメイズイ
Orchis aristata FISCH. ハクサンチドリ

2) **Adenophora uryuensis** MIY. et TATEW. in Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 14 : 80, f 7 (1935)

f. **angustifolia** S. WATANABE f. nov.

Folia angustiora-linearia 6～7 cm. longa 0.4～0.5 cm. lata apice acuta.